

有機溶剤の測定技術に係る資料(抄)

資料番号-14

物質名	最も小さい値 が管理濃度と なった場合 (ppm)	現行の作業環境測定基準による測定方法				管理濃度変更 後の測定の可 能性	備 考		
		試料採取方法	分析方法	試料吸引流量 L/min	定量下限 ppm(導入量)		NIOSN		
							FLOW RATE L/min	VOL-MIN L	VOL-MAX L
エチレングリコール モノメチルエーテル	0.1	直接捕集法	ガスクロマトグラフ分析法		2 (2mL)	×			
		固体捕集法(シリカゲル管)	ガスクロマトグラフ分析法	0.05-0.5		△			
		固体捕集法(活性炭管)	ガスクロマトグラフ分析法	0.05-0.5		△	0.01-0.05	6	50
二硫化炭素	1	直接捕集法	ガスクロマトグラフ分析法		0.5 (1mL)	△: FPD			
		液体捕集法	吸光光度分析法	0.05		?			
		固体捕集法(U字型シリカゲル管)	吸光光度分析法	0.5		?			
		固体捕集法	ガスクロマトグラフ分析法	0.05-0.5		△: FPD	0.01-0.2	2	25

○: 測定可能 ×: 測定不可
△: 要検討 ? : データなし

物質名	最も小さい値が管理濃度となった場合 (ppm)	検知管法	現行の作業環境測定基準で認められている検知管の測定範囲 (ppm)	現行の作業環境測定基準では認められていないが市販されている検知管の測定範囲 (ppm)
エチレングリコール モノメチルエーテル	0.1			ガステック 113LL 20~200
二硫化炭素	1	○	ガステック 13 0.63~100 北川式 141SB 4~300	

管理濃度の見直しが予定されている物質について

	現行管理濃度 (ppm)	産衛学会:許容濃度 (ppm)	ACGIH (ppm)
エチレングリコールモノメチルエーテル	5	5	0.1
二硫化炭素	10	10	1